

# 目標へ努力 人生の財産に

参院議員・元プロ野球選手 石井浩郎さん =1982年度卒

H. 30. 5. 15

県立秋田高 5

参院議員の石井浩郎さん(53)「1982年度卒」は元プロ野球選手です。近鉄バファローズや巨人で、長打力と勝負強さを武器にファンを魅了しました。県立秋田高時代は「ひたすら野球に打ち込んだ」と振り返り「甲子園出場は逃したけれど、目標に向かって努力した日々が財産になりました」と話します。

【川村咲平】

小学4年の時に野球を始めました。当時は市立秋田商が全国に名をとどろかせる強豪校で、私もファンでした。でも中学生の頃、早慶戦をテレビで見ると感動し、「六大学野球が開かれる」神宮球場でプレーしたいと思うようになりました。

当時は早大の岡田彰布さん(後に阪神)が花形選手で、あこがれていました。「早慶に入るには(より進学校の)秋田高しかない」と受験しました。

入学後は野球一色です。「進学校だから練習は毎日2時間くらいかな」と思っていたら、とんでもない。とにかく厳しく、朝練に始まり、昼休みもグラウンド整備です。暗くなくても練習が終わらない。休日は元日くらいでした。恩師の大久保正樹監督は口数は多くありませんでしたが、練習ではとにかく妥協を許しませんでした。ただ、当時は室内練習場がなく、雪が積もる冬場は思うように打撃練習ができません。そのため自宅の広

間で、毛糸を丸めたボールを父に投げてもらい、それを何度も打ち返していました。ボールは母の手製でした。「卒業後も野球を続けてほしい」と大久保監督は考えていたのでしょ。毎年6月く

いい・ひろお 八郎湯町生まれ。早大中退後、プリンスホテルを経て、1990年近鉄バファローズにドラフト3位で入団。94年に打点王。その後、巨人、千葉ロッテ、横浜でプレーし2002年引退。通算成績は162本塁打、536打点、打率2割8分9厘。04年には西武2軍監督に就任した。10年の参院選秋田選挙区で初当選し、現在2期目。自民党秋田県連会長。

らいに、秋田高OBで大学の現役選手がコーチとして来てくれました。六大学などのユニホームを着ている先輩に刺激を受け、卒業後も野球を続ける部員が多かったですね。結局、甲子園には出場できませんでしたが、2年の夏に4番打者として大会に臨みましたが、準々決勝の県立秋田南高戦で好投手を打ち崩せず、負けました。3年の夏は初戦で秋田経法大付高(現・明桜)に敗れました。悔しかったけれど「大学野球で絶対にひと花咲かせてやる」と決意が固まりました。

夏の引退後、受験勉強が待っていました。大学野球しか考えていなかったから志望校を早稲田、慶応、立教と書いていたのです。すると担任の先生に職員室に呼び出され「何浪するつもりだ。2ランク落とせ」と言われました。この一言で「絶対現役で受かってやる」と発奮しました。受験勉強では眠気に勝つため、机の横に氷水が入った洗面器を置き、眠くなると顔を突っ込んで気合を入れました。一般入試で早大第2文学部に合格できました。

高校球児の目標は甲子園だと思えます。でも出場の有無はあくまで結果です。それより、目標に向かって努力する姿勢がその後の人生の財産になるはず。社会に出てからは結果より過程を大事にする姿勢があらゆる場面で大事になってくると思います。

